

石黒： 実際はですね、12時をきして五番街の交通を止めたんですが、それが日本へ導入されておっしゃるように歩行者天国となったわけです。

早川： そうですか。それはおもしろいですね。おもしろいなんていうといけないかもしれませんが。

*****テープの不具合*****

早川： でもその30年前のEarth dayを石黒さんももろに楽しまれて・・・？

石黒： ええ私はもうもろに楽しんで、それは私にとって環境に対して非常に好意的な感情をもつということになったのです。

早川： では、そもそものきっかけが30年前でいらっしやった。そして今のお仕事、先ほど私は「ペス建築環境設計」というふうにご紹介したんですけど、そういうお仕事にもつながっていらっしやったんですね。

石黒： 仕事は直接的につながるといことはあんまりないのですが、何かをしないと生きてる証にはならないと、できれば好きなことをやりながら生きている証を死ぬまで自分なりに確認したいという中で、私は自然が好きだし、それからテクノロジーも好きだから、両方の接点でやれるような環境に配慮した設計というものを選んだわけです。

早川： 「ペス」というのは「PES」と書きますけれど、これも環境に配慮したというような・・・。

石黒： 環境に配慮したというよりも環境を考えてというふうにもしろ私たちは考えている。環境に配慮した空間設計という得てしてエネルギーを全然使わないとか、まるでテクノロジーから離れてしまった、たとえば風呂に入らない生活をするとかそういうようなことを私は決して望んでいるわけではなくて、人間の欲望をある調和した形の中で実現していくことに対して協力したい、そういう空間をつくりたいというのが希望です。

早川： 環境空間の企画という意味があると受け止めるんですが、すぐものたちがいろんな欲をもちますよね。「こういうことをすると快適だろうな。こんな環境の中で暮らしてみたいな。」そういうアイデアのようなものを考えてくださるという・・・。

石黒： 私はたとえばですね、人間の五感というものに対して非常に観点を持っているわけですね。五感をどのように人間が失いつつあるかということについて私自身は非常に関心があって、私はだからテレビを音だけで聞いたり、画面を隠して音だけで聞くんですが、あるいは、音を消して画像だけで見ると、そういうようなことで自分達の五感に戻る、獲得できる。従って空間がそういうように作られている、自由に選べる、非常に原始的なことから非常に高度なテクノロジー、自動制御のところまで選べるというような空間が作りたい。